

先端科学技術研究科 修士論文要旨

| | | | |
|---|------------------------------------|-----|--------------|
| 所属研究室 (主指導教員) | ユビキタスコンピューティングシステム (安本 慶一 (教授)) | | |
| 学籍番号 | 2011291 | 提出日 | 令和 4年 1月 21日 |
| 学生氏名 | 吉川 莉央 | | |
| 論文題目 | 環境要因が参加型センシングの回答信頼性に与える影響の調査 | | |
| 要旨 | | | |
| <p>スマートフォンやタブレット等のデバイスが爆発的に普及しているのを背景とし、ユーザ自身の端末を用いて周囲の環境情報をセンシングし共有する手法の一つである「参加型センシング」が注目されている。しかしながら、Web調査において不良回答が多いことと同様に、参加型センシングにおいてもユーザは必ずしも正確な回答をするとは限らず、データの質がユーザに依存する問題が存在する。本研究では、参加型センシングにおける不良回答発生の原因が、タスクに対するユーザの態度だけでなく、ユーザを取り巻くストレスフルな環境要因(例えば、時間制約や騒音など)にもあると考えた。そこで、ストレスの多い状況下と通常時において参加型センシングタスクの正答率や回答状況に違いがあるのかを、模擬環境と実環境において調査した。</p> <p>模擬環境での実験の結果、雑音や歩行のストレスは、正答率を有意に下げ、歩行や時間制約によるストレスは、それぞれ回答時間を長く/短くすることが確認された。また実験後に、ストレス環境条件が参加型センシングのタスクに及ぼす影響を調査するための、主観的評価アンケートを実施した。その結果、複数のストレス環境条件が組み合わさった場合には特に、ストレスがタスク回答に支障・影響を与えたといった回答が多く得られた。</p> <p>模擬環境での実験の結果を踏まえ、大学構内にある食堂での実験を実施した。その結果、ストレス環境条件が正答率や回答時間に影響する可能性が示唆された。</p> | | | |